

〔目的〕近年、コインランドリーも様変わりし、コインドライ機器を設置した大型コインランドリーが増加している。消費者が自分で洗えて、安いことが強調され消費者利用が進みマスコミなどで取り上げられていることから、今後さらに設置台数の拡大が予想される。そこで本研究では、コインドライでの洗濯を試み、諸性能変化を調べることで、消費者としての立場で問題点はないか、多方面より検討を行った。

〔方法〕コインドライ機器（パークレン系、石油系の2種）を設置している店舗を利用し繰り返し5回洗濯を行い、洗浄力、再汚染、収縮率、防しわ性、剛軟度、官能検査による風合い変化について、織物（6種）、編地（4種）、衣料品について検討を行った。

〔結果〕繰り返し洗濯の結果、パークレン系溶剤の場合、綿布、レーヨン布、麻布について、こし、はりが失われ、ぬめり感が増すなどの風合い変化が顕著であった。羊毛布、アクリル布、ポリエステル布は変化が認められなかった。また、洗濯後の試料布について色差計（日本電色<sup>株</sup>製NR-3000）で黄変値（b値）、表面反射率（L値）を測定した結果、特に綿布に黄変がみられた。収縮率については、綿、羊毛編地に3～5%の変化があった。利用費用については商業クリーニングを利用するより安価であるが、仕上げについて自分で行うため複雑な衣料については手間と技術を要する。以上のことより、消費者としては商業クリーニングとコイン式ドライクリーニングに出すものを区別し、利用する必要があると考えられる。